

2019年度

豊能二次医療圏「地域医療構想」 現状と今後の方向性

大阪アプローチ

圏域ごとのデータに基づく分析をもとに
公民のイコールフティングで
病床機能分化の議論を進める

Contents

1 豊能二次医療圏の概要

- (1) 今後の医療需要の見込み
- (2) 医療体制の概要
- (3) 疾患別の状況
- (4) 入院患者の推移
- (5) 在宅医療提供体制
- (6) 診療実態の分析の結果

2 高度急性期から急性期^(急性期一般※)の概要

- (1) 病床の現状
- (2) 患者受療・医療提供状況(NDB)
- (3) 現状と課題のまとめ

※急性期一般入院基本料（旧7対1、10対1）

3 急性期^(地域一般※)から回復期の概要

- (1) 病床の現状
- (2) 患者受療・医療提供状況(NDB)
- (3) 現状と課題のまとめ

※地域一般入院基本料（旧13対1、15対1）

4 長期療養(慢性期)の概要

- (1) 病床の現状
- (2) 患者受療・医療提供状況(NDB)
- (3) 現状と課題のまとめ

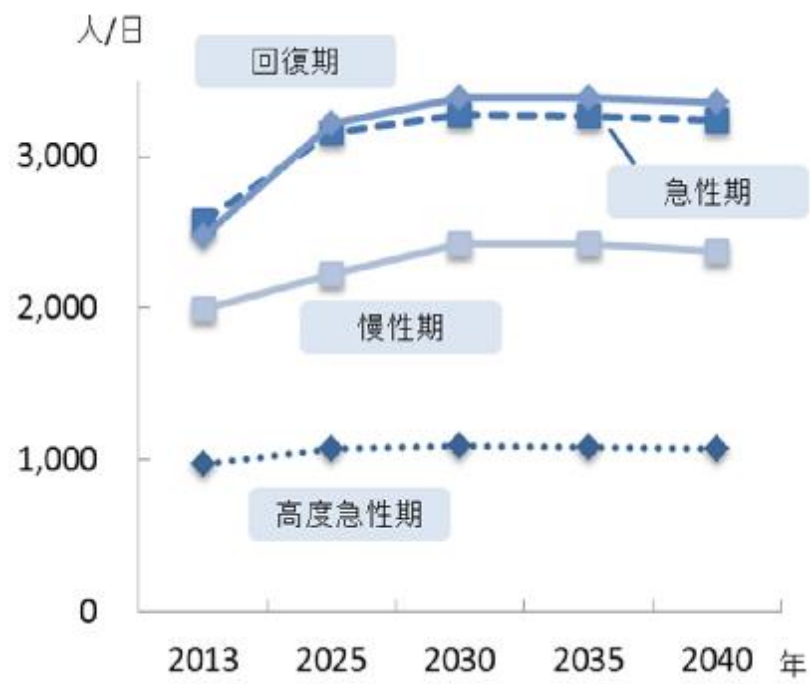
5 将来のあるべき医療体制に向けて

- (1) 2025年に各病院が検討している
病床機能
- (2) 2025年に各病院が検討している
病床機能のまとめ

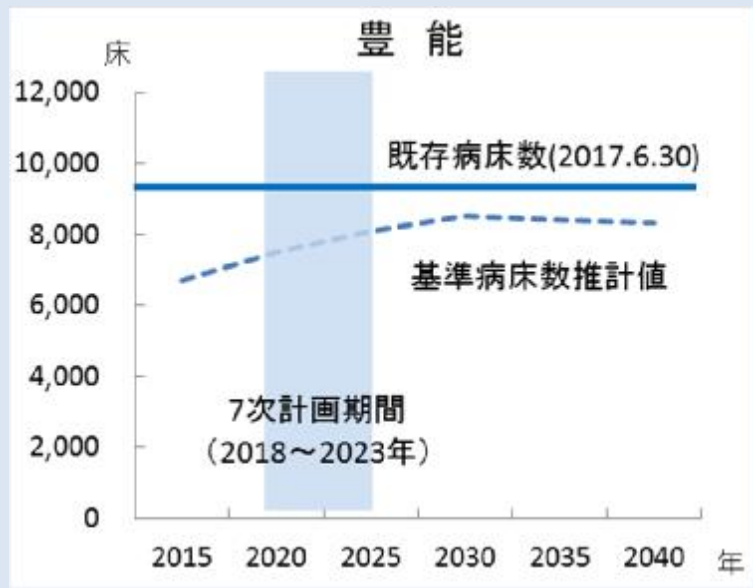
1 豊能二次医療圏の概要 (1) 今後の医療需要の見込み

豊能二次医療圏では、今後、2030年をピークに医療需要(特に、急性期と回復期)が増加する見込みである

● 病床機能ごとの医療需要の見込み(総計)



● 基準病床数の見込み



基準病床数の将来見込みでは、2030年においても、既存病床数に達しない見込み。

	2013年	2025年		2030年		2035年		2040年	
	(人/日)	(人/日)	対2013年	(人/日)	対2013年	(人/日)	対2013年	(人/日)	対2013年
高度急性期	970	1,077	1.11	1,090	1.12	1,081	1.11	1,069	1.10
急性期	2,577	3,154	1.22	3,275	1.27	3,267	1.27	3,234	1.25
回復期	2,473	3,219	1.30	3,382	1.37	3,384	1.37	3,354	1.36
慢性期	1,995	2,227	1.12	2,420	1.21	2,421	1.21	2,378	1.19
合計	8,015	9,677	1.21	10,167	1.27	10,153	1.27	10,035	1.25

参照：第7次大阪府医療計画 一部改編

1 豊能二次医療圏の概要(2) 医療体制の概要①

豊能二次医療圏では、新公立病院改革プラン補足調査対象病院が4病院、公的医療機関等2025プラン対象病院が6病院である

● 主な医療施設の状況

所在地	病院名	新にかかると公立病院改革補足調査対象	公的医療機関等2025プラン対象病院	特定機能病院	地域医療支援病院	社会医療法人開設病院	公的医療機関等	府立病院機構	在宅療養後方支援病院	がん診療拠点病院	三次救急医療機関	災害拠点病院	特定診療災害医療センター	周産期母子医療センター	感染症指定医療機関	結核病床を有する病院	エイズ治療拠点病院
豊中市	1 関西メディカル病院					○			○								
	2 社会医療法人北斗会さわ病院					○											
	3 市立豊中病院	○			○		○			□				○	○		
	4 独立行政法人国立病院機構刀根山病院		○			○		○	○								○
池田市	5 市立池田病院	○			○		○		○								
吹田市	6 大阪市立弘済院附属病院		○				○										
	7 医療法人沖繩徳洲会吹田徳洲会病院								○								
	8 社会福祉法人恩賜財団済生会支部大阪府済生会千里病院		○		○		○		○	○	○						
	9 国立研究開発法人国立循環器病研究センター		○	○			○							○			
	10 市立吹田市民病院	○					○			○							
	11 大阪大学医学部附属病院		○	○			○			□	○	○		□			○
	12 大阪大学歯学部附属病院						○										
13 社会福祉法人恩賜財団済生会支部大阪府済生会吹田病院		○		○		○			○				○				
箕面市	14 箕面市立病院	○			○		○		○								
合計		4	6	2	5	2	11	0	4	8	2	2	0	4	1	0	2



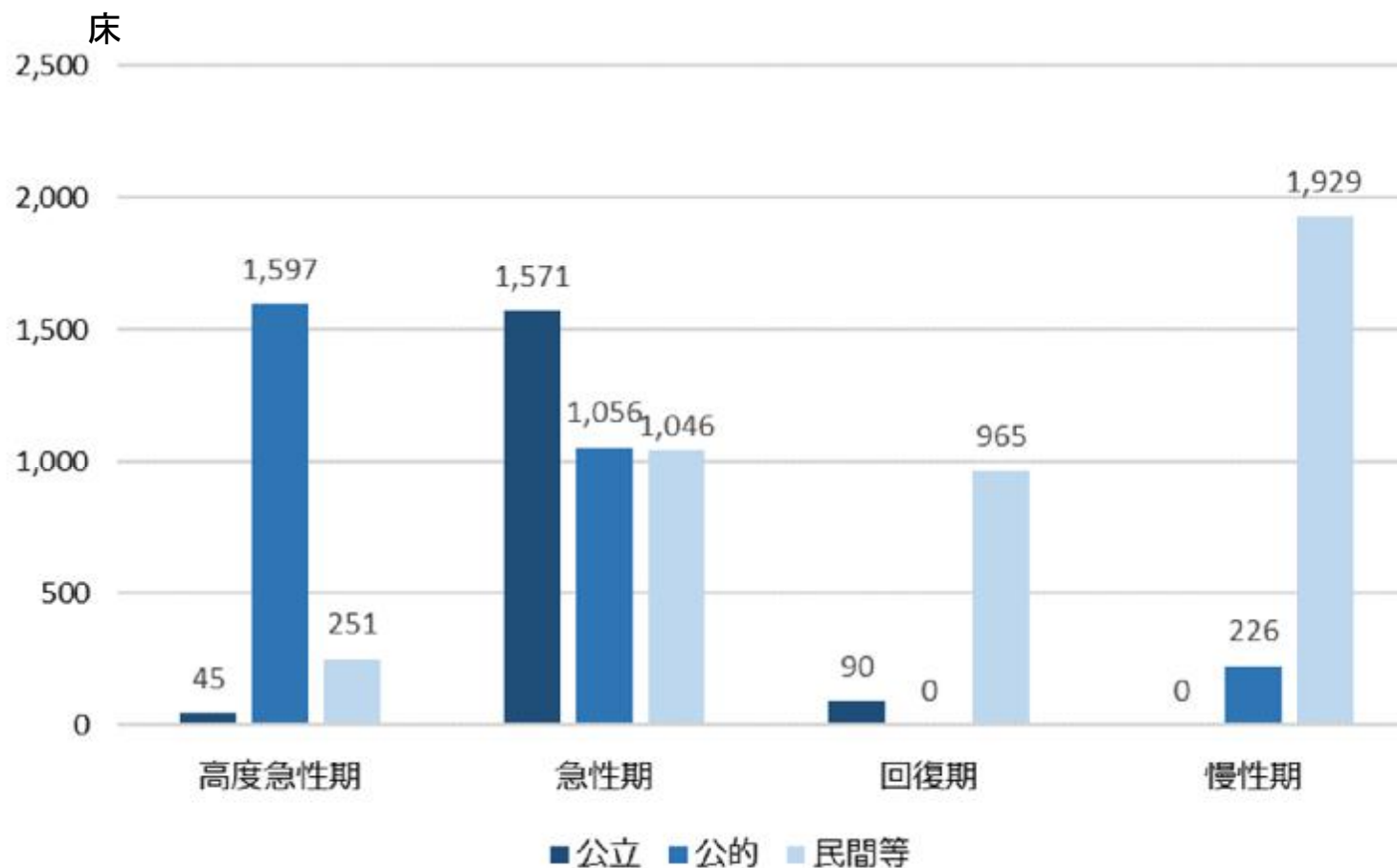
2019年5月末時点
【対象病院数43の内訳】
公立病院：4
公的病院：6
民間等病院：33

※ 「がん診療拠点病院」の□印は「地域がん診療連携拠点病院(国指定)」、○印は「大阪府がん診療拠点病院(府指定)」を示す。
※ 「周産期母子医療センター」の□印は「総合周産期母子医療センター」、○印は「地域周産期母子医療センター」を示す。

1 豊能二次医療圏の概要(2) 医療体制の概要②(病床機能別実態)

高度急性期は公的病院に、回復期と慢性期は民間病院に多く見られ、急性期は公立病院に最も多い

●病床機能別病床数(病院プラン等提出42病院(公立4、公的6、民間等32))

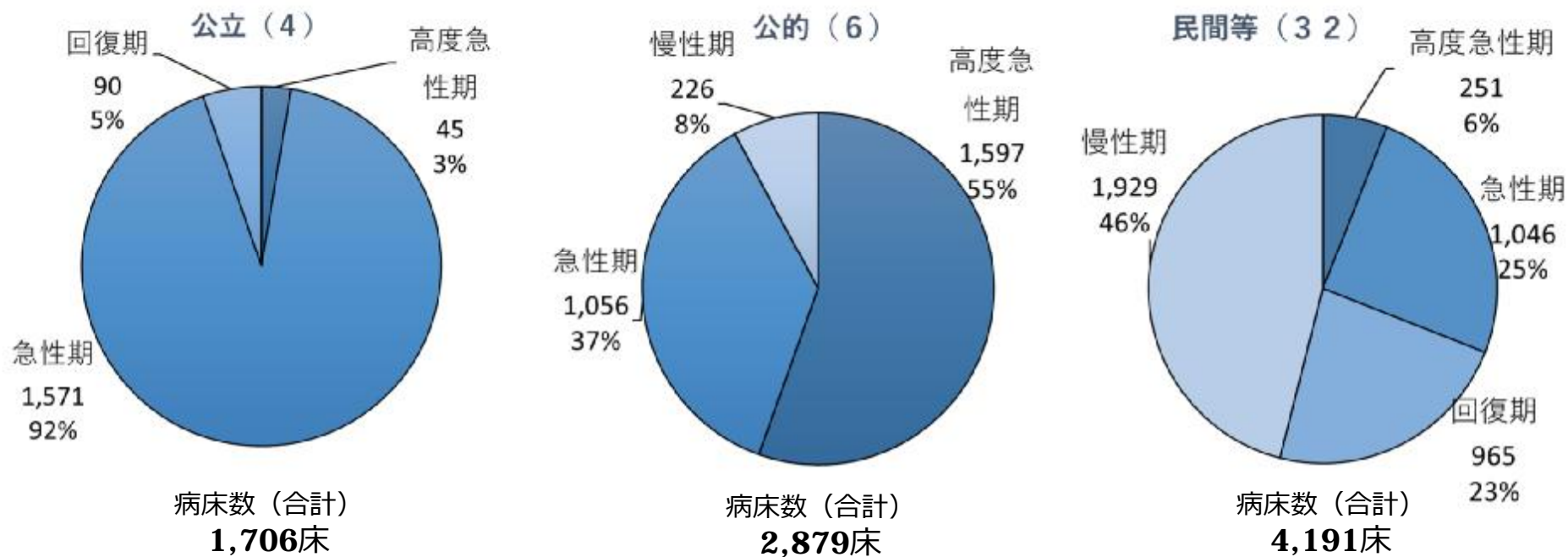


参照：2018年度病院プラン調査等

1 豊能二次医療圏の概要(2) 医療体制の概要③(公民別病床機能)

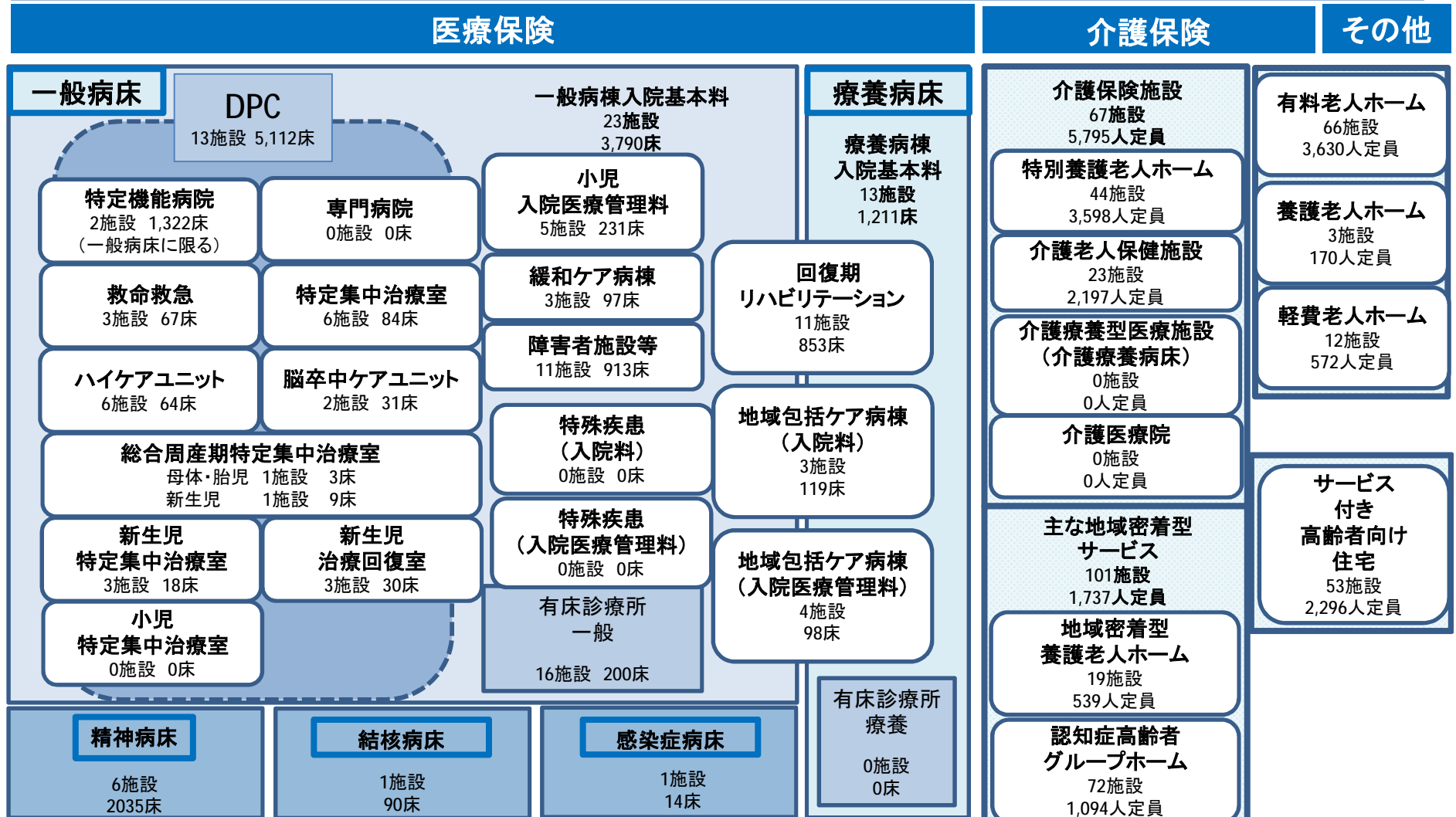
公立病院は急性期、公的病院は高度急性期、民間病院は慢性期が最も多い

● 公民別病床数の病床機能別割合(病院プラン等提出42病院(公立4、公的6、民間等32))



1 豊能二次医療圏の概要(2) 医療体制の概要④(医療介護提供体制)

医療・介護提供体制は、多くの機能・施設から構成されているが、
介護療養型医療施設・介護医療院はない

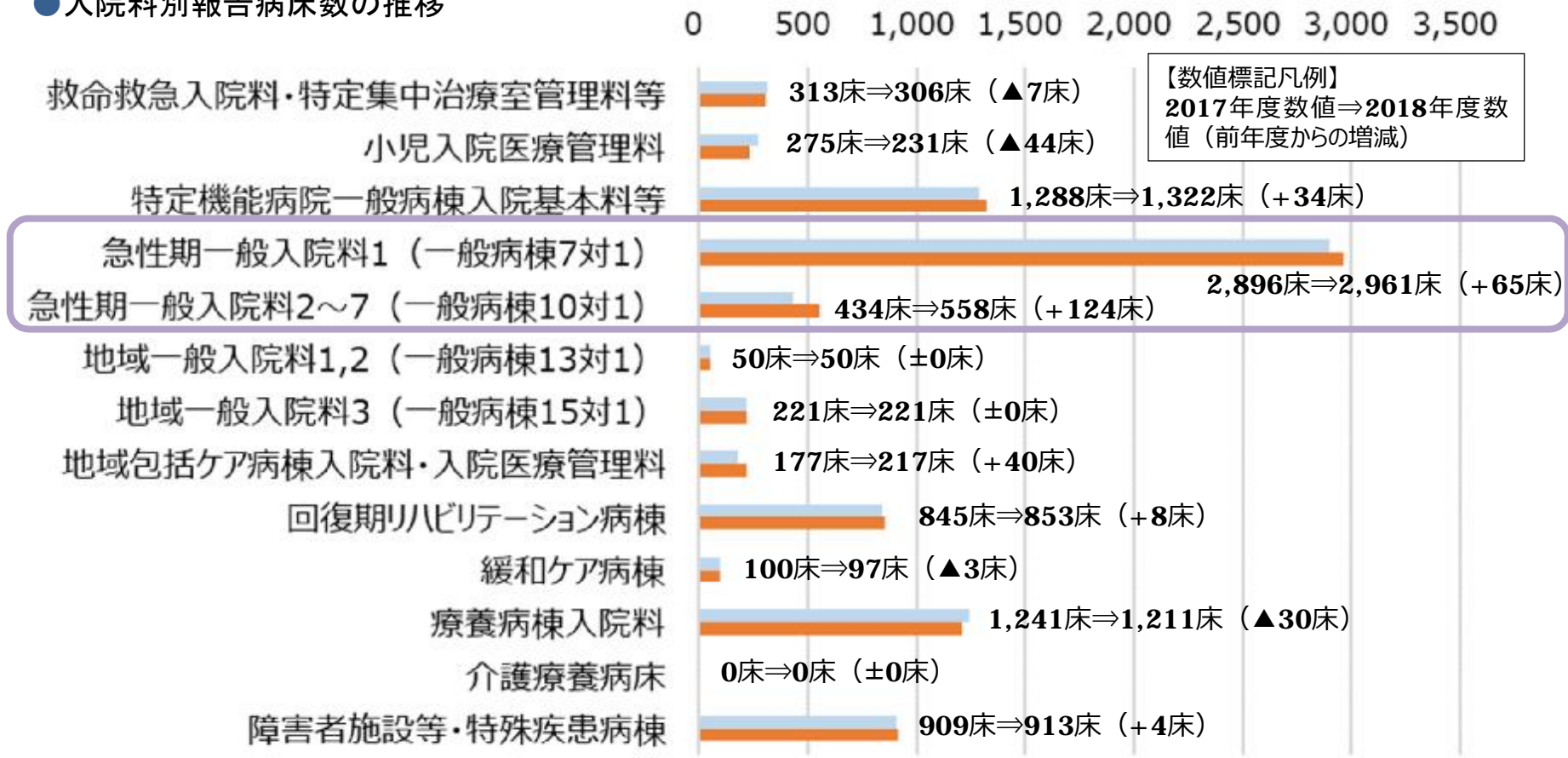


出典 「医療保険」病床機能報告(2017年7月1日時点の医療機能：2018年10月集計)ただし、次項目は右記のとおり、精神病床・結核病床・感染症病床(大阪府健康医療部資料(2019年3月31日現在))「介護保険・その他」大阪府福祉部資料(認知症高齢者グループホームは2018年1月1日現在、その他施設は2019年4月1日現在)

1 豊能二次医療圏の概要(2) 医療体制の概要⑤ (入院料別の経年変化)

前年度と比し、一般病棟10対1や7対1、地域包括ケア等が増加し、小児入院医療管理料や療養病棟入院料等が減少した

●入院料別報告病床数の推移



【数値標記凡例】
2017年度数値⇒2018年度数値 (前年度からの増減)

■ 2017 ■ 2018 出典 病床機能報告 (結果は暫定集計)

1 豊能二次医療圏の概要(2) 医療体制の概要⑥(転換補助金)

現在のところ、豊能二次医療圏での「病床転換促進事業補助金」の交付実績はない

病床転換促進事業補助金（実績）

大阪府全体

	補助金交付病院数 ()内は豊能二次医療圏の実績			補助金交付病床数 ()内は豊能二次医療圏の実績		
		(内) 病床転換完了	(内) 公立・公的病院		(内) 病床転換完了	(内) 公立・公的病院
2015年	3 (0)	3	3	119 (0)	119	119
2016年	5 (0)	3	0	103 (0)	63	0
2017年	7 (0)	5	2	303 (0)	125	41
2018年	8 (0)	6	0	315 (0)	285	0
合計	23(0)	17	5	840 (0)	592	160

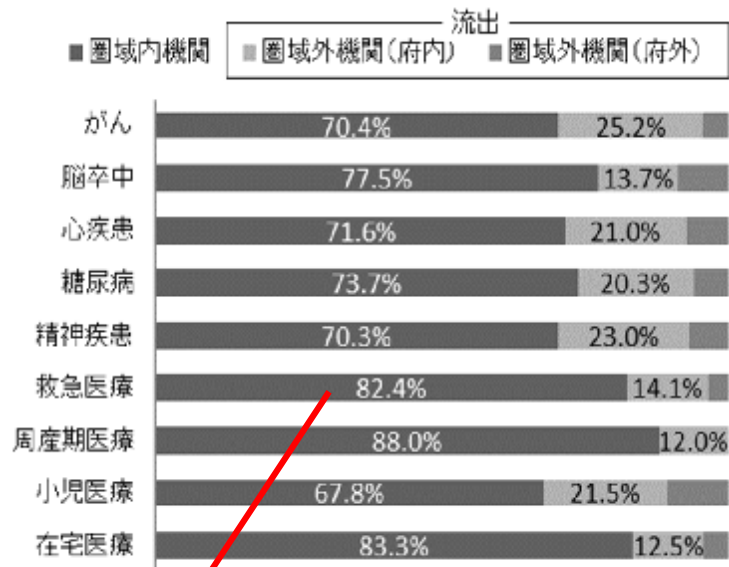
1 豊能二次医療圏の概要 (3) 疾患別の状況(患者受療状況)

疾病・事業の自己完結率は比較的高く、
多くの疾病・事業において、流入超過の傾向が見られる

5 疾病4事業・在宅医療

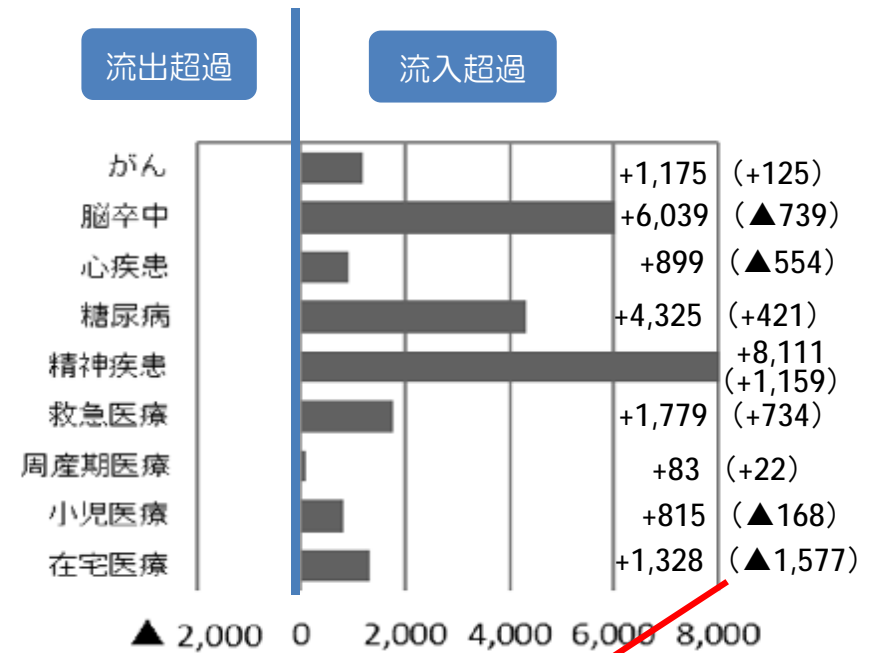
(1) 患者受療状況(2016年度NDBデータ【国保・後期高齢者レセプト】)

● 住民の入院先医療機関の所在地別割合



救急医療にかかる自己完結率は「82.4%」

● 流入患者と流出患者の差(レセプト件数)



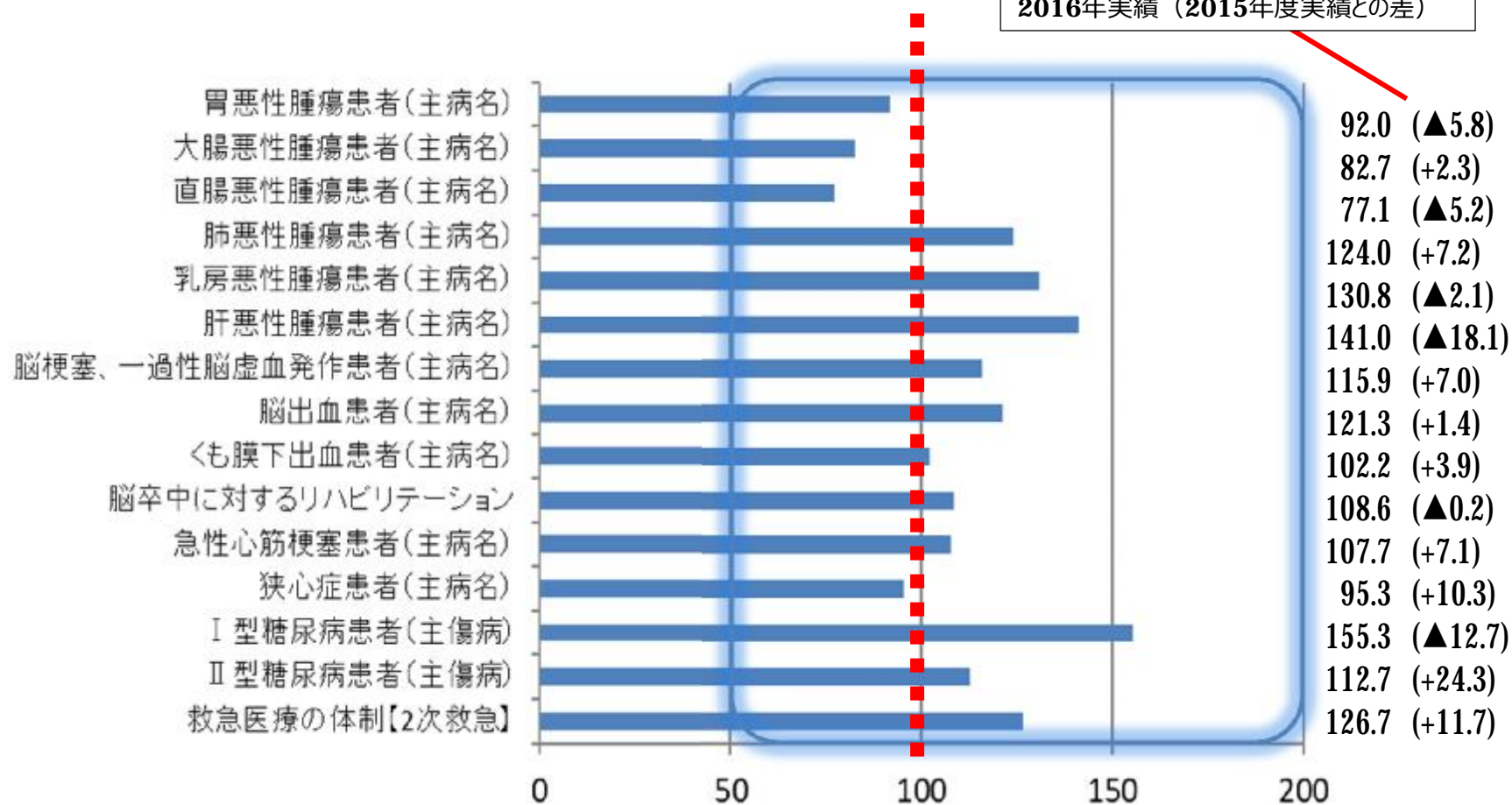
【数値標記凡例】
2016年実績 (2015年度実績との差)

1 豊能二次医療圏の概要 (3) 疾患別の状況(医療提供状況)

多くの疾患は、SCR(50~200)範囲に含まれており、
全国と比較して医療提供実績が極端に低い疾患は見受けられない

(2)医療提供状況(SCR※) (2016年度NDBデータ)

【数値標記凡例】
2016年実績 (2015年度実績との差)



※SCR:年齢調整標準化レセプト出現比

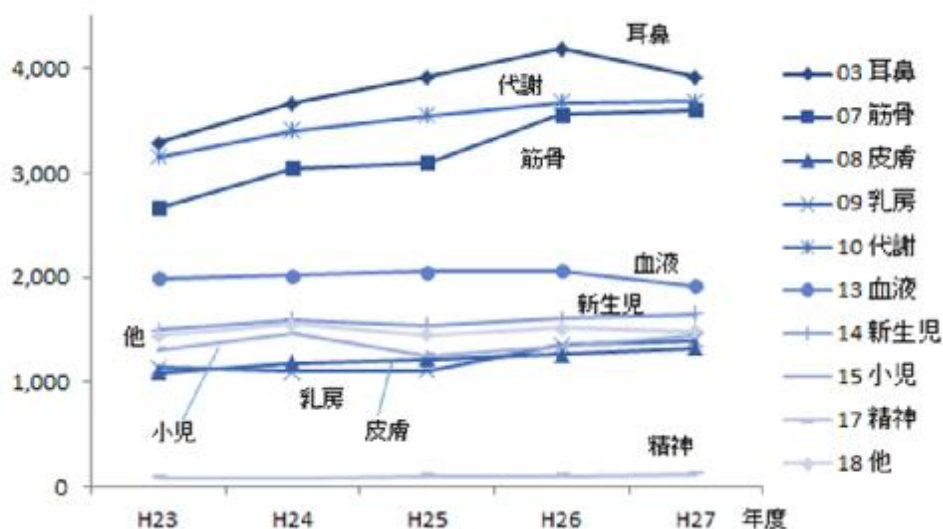
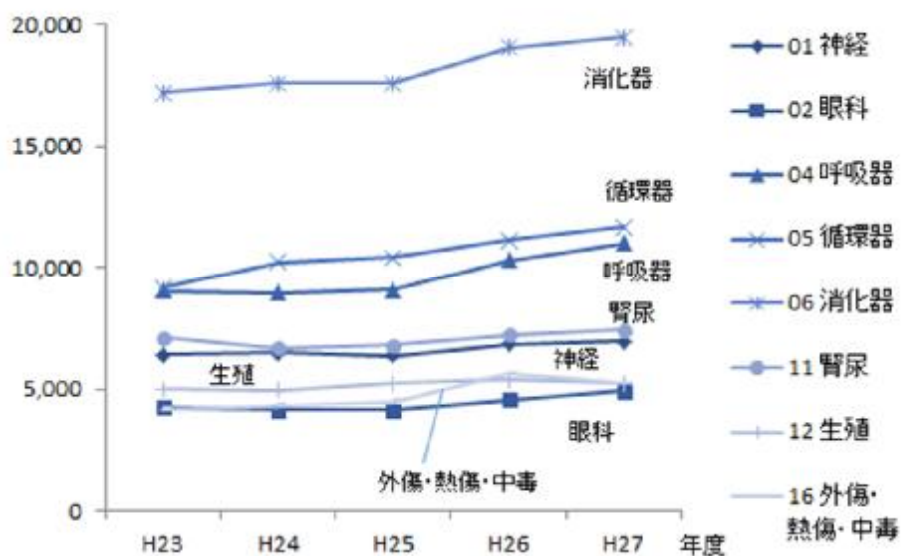
1 豊能二次医療圏の概要 (3) 疾患別の状況(診療実績の推移)

DPC参加病院において、多くの部位別の診療実績は増加傾向
もしくは横ばいの状態で推移している

DPC参加病院のMDC※別診療実績の総計推移(豊能)

● 診療実績4,200件以上

● 診療実績概ね4,200件未満

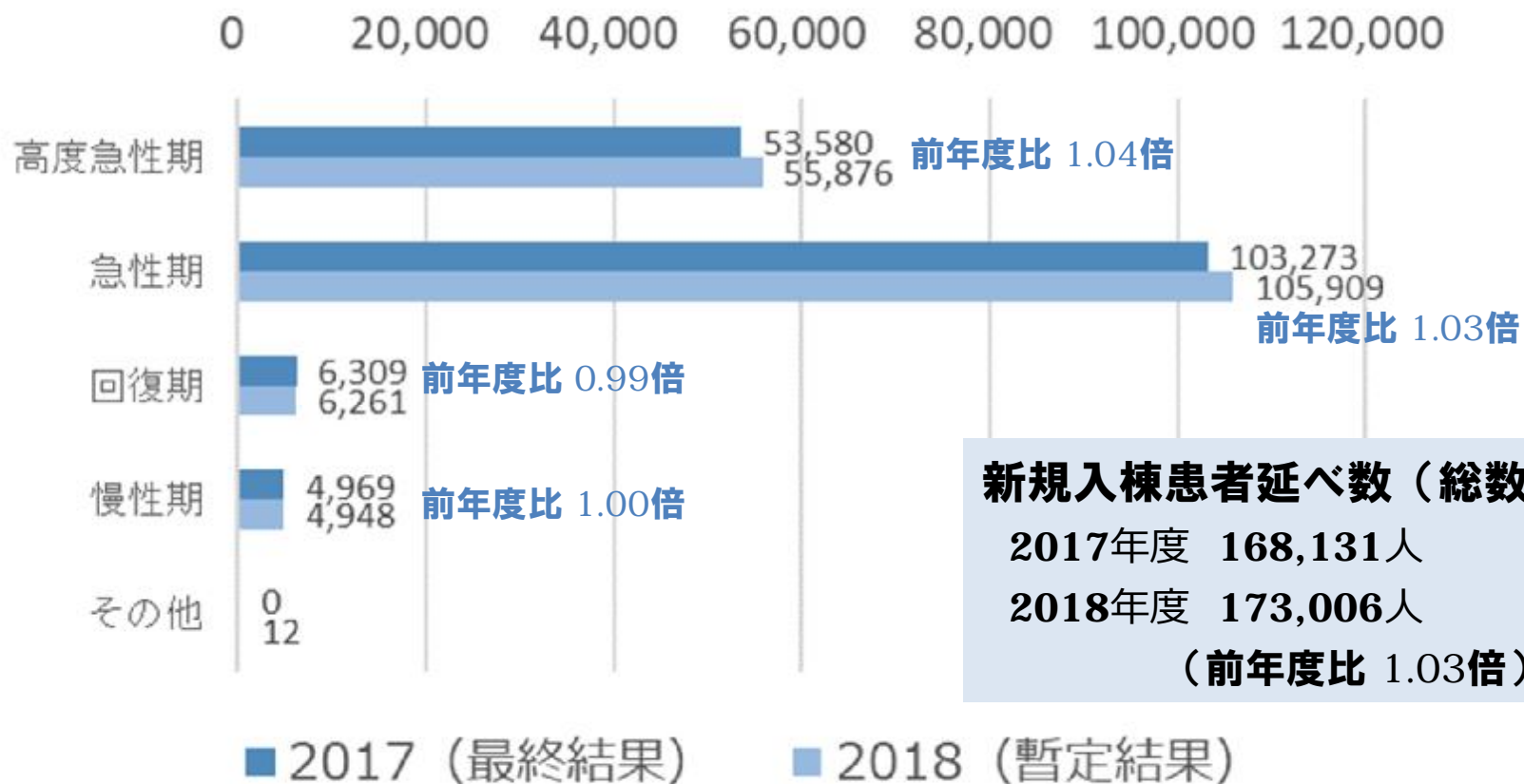


※MDC: Major Diagnostic Categoryの略、18群に分類された主要診断群

1 豊能二次医療圏の概要(4) 入院患者の推移①(新入棟患者数)

新規入棟患者延べ数(総数)は前年度より微増している

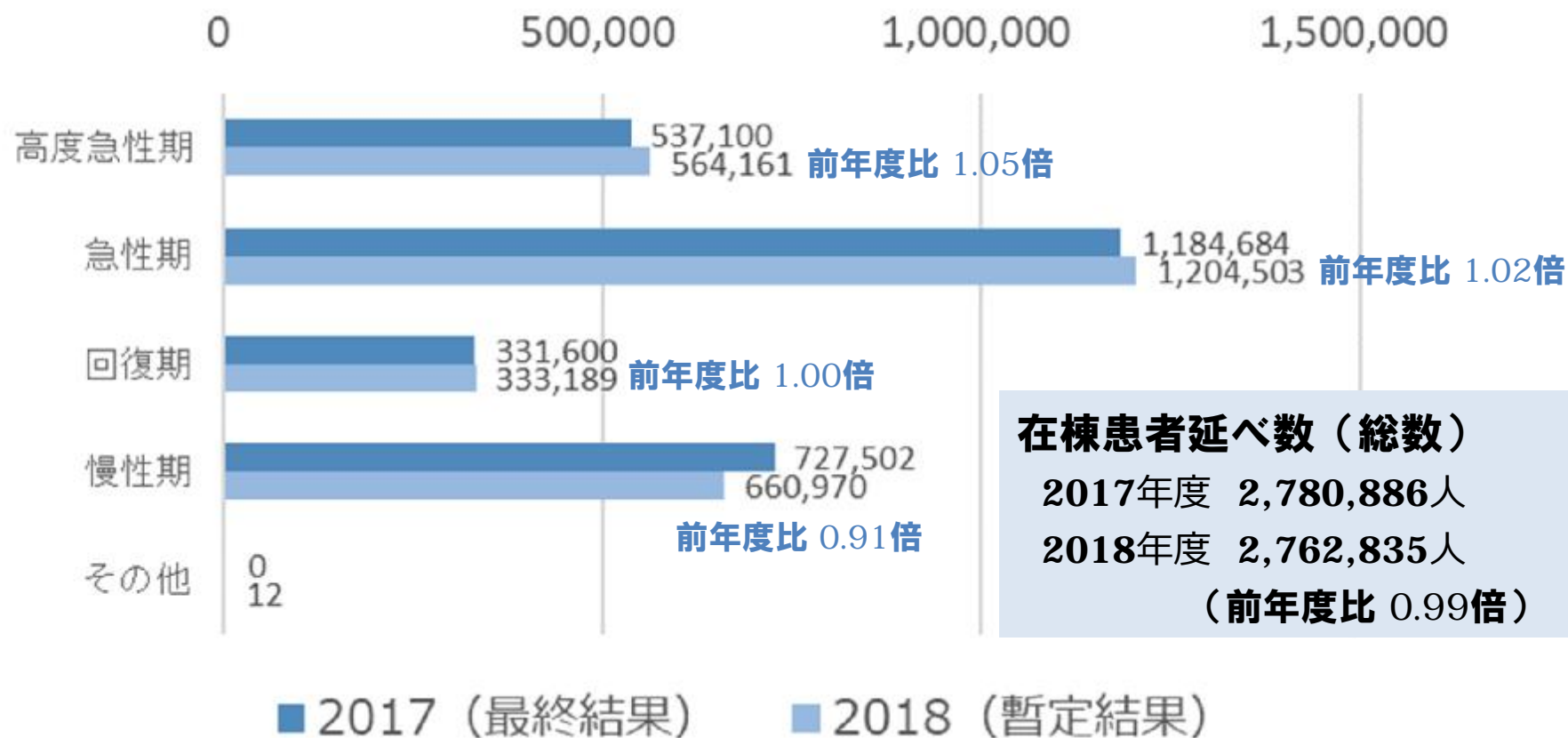
● 新規入棟患者延べ数の推移



1 豊能二次医療圏の概要(4) 入院患者の推移②(在棟患者数)

在棟患者延べ数(総数)は前年度より微減となっている

● 在棟患者延べ数の推移



1 豊能二次医療圏の概要(5) 在宅医療提供体制①

大阪府全体と比較すると、豊能圏域の在宅療養支援病院、後方支援病院、機能強化型訪問看護ステーションは半分程度である

●在宅医療提供体制(人口10万人対施設数)

	訪問診療を実施している診療所	在宅療養支援診療所		在宅療養支援病院		在宅療養後方支援病院	退院支援加算届出施設数	訪問診療を実施している歯科診療所(居宅)	訪問診療を実施している歯科診療所(施設)	在宅療養支援歯科診療所	在宅患者調剤加算の届出薬局	訪問看護ステーション	
		再掲)	再掲)	再掲)	再掲)							再掲)	再掲)
		機能強化型	機能強化型	機能強化型	機能強化型							機能強化型	機能強化型
豊能	21.9	18.5	3.8	0.48	0	0.19	2.7	9.8	7.3	11.6	15	10.5	0.19
三島	19.5	21.2	2	0.94	0.54	0.54	3.1	6.7	5.4	7.1	14.9	7.8	0.54
北河内	17.2	12.7	2.1	1.37	0.26	0.17	2.9	7.6	7.8	9.8	15.5	10.9	0.26
中河内	20.4	19.2	3.9	0.95	0.47	0.12	2.3	9.7	7.4	11.2	10.2	10.7	0.47
南河内	20.9	19.7	3.8	1.31	0.98	0.33	3.1	9.3	8.6	12.1	14.5	12.4	0.16
堺市	20.7	19.2	3.1	1.31	0.6	0.24	2.5	10.1	7.4	11.7	15.6	13.6	0.48
泉州	17.6	14.5	3.5	2.21	0.55	0.33	2.8	7.8	8.4	10.9	12	11.5	0.22
大阪市	29.1	29.2	5.2	1.3	0.71	0.63	2.9	11.1	9.3	14.5	18.7	12.3	0.48
大阪府	22.5	21	3.8	1.24	0.52	0.37	2.8	9.4	8	11.8	15.5	11.4	0.37

参照：第7次大阪医療計画一部改変

1 豊能二次医療圏の概要(5) 在宅医療提供体制②

在宅療養支援病院や後方支援病院、機能強化型訪問看護ステーションは圏域内でも一部の市にしか見られない

●在宅医療提供体制(人口10万人対施設数)

	訪問診療を実施している診療所	在宅療養支援診療所	再掲) 機能強化型	在宅療養支援病院	再掲) 機能強化型	在宅療養後方支援病院	退院支援加算届出施設数	訪問診療を実施している歯科診療所(居宅)	訪問診療を実施している歯科診療所(施設)	在宅療養支援歯科診療所	在宅患者調剤加算の届出薬局	訪問看護ステーション	再掲) 機能強化型
豊中市	27.6	21.5	4.8	0.76	0	0	3.5	9.9	7.6	11.1	18.5	10.9	0
池田市	21.3	20.4	3.9	0	0	0	2.9	6.8	11.6	8.7	8.7	11.6	0.97
吹田市	15	15.2	2.7	0.27	0	0.53	2.1	10.7	5.9	13.4	15	10.7	0.27
箕面市	24	18	3	0.75	0	0	2.2	10.5	8.2	11.2	10.5	9	0
豊能町	30.1	15	5	0	0	0	0	5	5	10	10	10	0
能勢町	19.5	19.5	9.8	0	0	0	0	9.8	0	0	9.8	0	0
豊能	21.9	18.5	3.8	0.48	0	0.19	2.7	9.8	7.3	11.6	15	10.5	0.19
大阪府	22.5	21	3.8	1.24	0.52	0.37	2.8	9.4	8	11.8	15.5	11.4	0.37

参照：第7次大阪医療計画一部改変

1 豊能二次医療圏の概要 (6) 診療実態の分析の結果

病床数の必要量における回復期機能を担う病床数の確保には、豊能二次医療圏で約11%程度同機能への転換が必要と推計

● 病床機能報告と病床数の必要量の比較

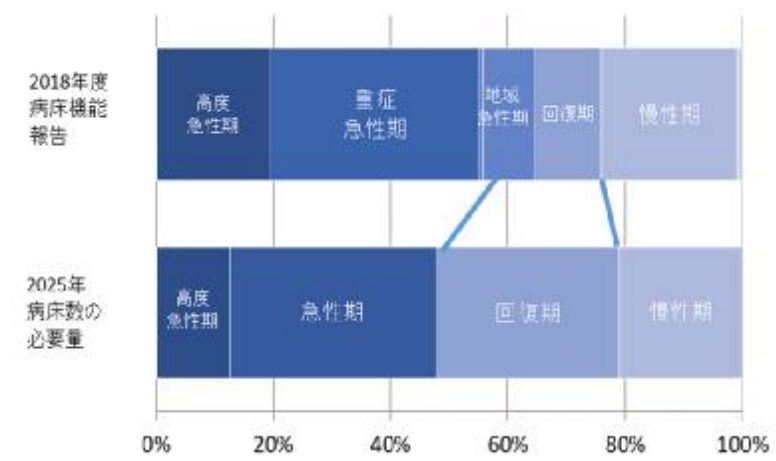
(単位:床)

区分	年度	高度急性期	急性期			回復期	慢性期	休棟等	未報告等	合計	
			重症急性期	急性期(不明)	地域急性期						
病床数の必要量	2013	1,294	3,304			2,748	2,169			9,515	
病床機能報告	2014	1,802	3,960			854	1,971	314	339	9,240	
病床機能報告	2015	1,772	4,067			811	2,149	148	291	9,238	
病床機能報告	2016	1,775	3,990			966	2,057	61	373	9,222	
病床機能報告	2017	1,746	4,072	3,117	0	955	1,066	2,175	0	25	9,084
病床機能報告(暫定)	2018	1,792	4,135	3,284	37	814	1,055	2,121	73	—	
病床数の必要量【既存病床数内】	2025	1,140	3,209				2,839	1,921			9,109
病床数の必要量【オリジナル】※	2025	1,436	4,044				3,577	2,421			11,478

※地域医療構想策定ガイドラインに基づく数値

● 病床機能報告(2018年度)と病床数の必要量(2025年)の割合の比較

区分	年度	高度急性期	急性期			回復期	慢性期	休棟等	未報告等
			重症急性期	急性期(不明)	地域急性期				
病床機能報告	2017	19.3%				11.8%	24.0%	0.0%	—
病床機能報告(暫定)	2018	19.5%				11.5%	23.1%	0.8%	—
病床数の必要量	2025	12.5%				31.2%	21.1%		



サブアキュート・ポスト アキュート・リハビリ機能の現状と将来の予測

① 病床機能報告(地域急性期+回復期)

2017年度	22.3%
2018年度(暫定)	20.4%

② 病床数の必要量(回復期)

31.2%

割合の差
10.8%
(約1,000床)

※2018年は暫定集計(病床機能報告集計日:2019年2月15日)

2 高度急性期から急性期(急性期一般)の概要(1) 病床の現状

人口10万当たりの病床数について、特定機能病院一般入院基本料等は府平均より多く、一般病棟10対1は少ない

●入院基本料・特定入院料別報告

入院料区分	豊能				大阪府			
	病床数	前年比	人口10万当たり病床数	前年比	病床数	前年比	人口10万当たり病床数	前年比
救命救急入院料・特定集中治療室管理料等	306床	▲7床	29床	▲1床	2,155床	84床	24床	1床
小児入院医療管理料	231床	▲44床	22床	▲4床	1,827床	▲74床	21床	▲1床
特定機能病院一般病棟入院基本料等	1,322床	34床	126床	3床	5,016床	71床	57床	1床
急性期一般入院料1(一般病棟7対1)	2,961床	65床	283床	6床	27,681床	▲369床	313床	▲5床
急性期一般入院料1【高度急性期での報告】	51床	42床	5床	4床	5,995床	332床	68床	4床
急性期一般入院料1【急性期での報告】	2,910床	23床	278床	2床	21,627床	▲376床	245床	▲4床
急性期一般入院料2～7(一般病棟10対1)	558床	124床	53床	11床	8,657床	▲6床	98床	0床

●病床の利用状況

入院料区分	豊能				大阪府			
	病床稼働率	前年比	平均在棟日数	前年比	病床稼働率	前年比	平均在棟日数	前年比
救命救急入院料・特定集中治療室管理料等	79.3%	6.3%	5.0	0.4	75.7%	5.2%	5.1	0.4
小児入院医療管理料	77.2%	▲0.5%	9.0	0.4	70.1%	▲4.3%	6.4	▲0.3
特定機能病院一般病棟入院基本料等	85.2%	▲1.7%	11.4	▲1.9	86.2%	5.5%	11.2	▲1.0
急性期一般入院料1(一般病棟7対1)	84.9%	1.8%	10.9	▲0.1	83.7%	1.8%	10.7	▲0.2
急性期一般入院料1【高度急性期での報告】	101.5%	23.6%	13.6	9.4	85.8%	0.6%	10.6	0.3
急性期一般入院料1【急性期での報告】	84.7%	1.6%	10.9	▲0.1	83.4%	1.5%	10.7	▲0.3
急性期一般入院料2～7(一般病棟10対1)	64.8%	▲10.5%	16.9	▲0.4	78.2%	2.5%	15.4	0.3

2 高度急性期から急性期(急性期一般)の概要 (2) 患者受療・医療提供状況(NDB) ①

各入院料の自己完結率(圏域内の医療機関で入院する割合)は高く、
特定機能病院一般入院基本料や一般入院基本料(7対1)は流入超過

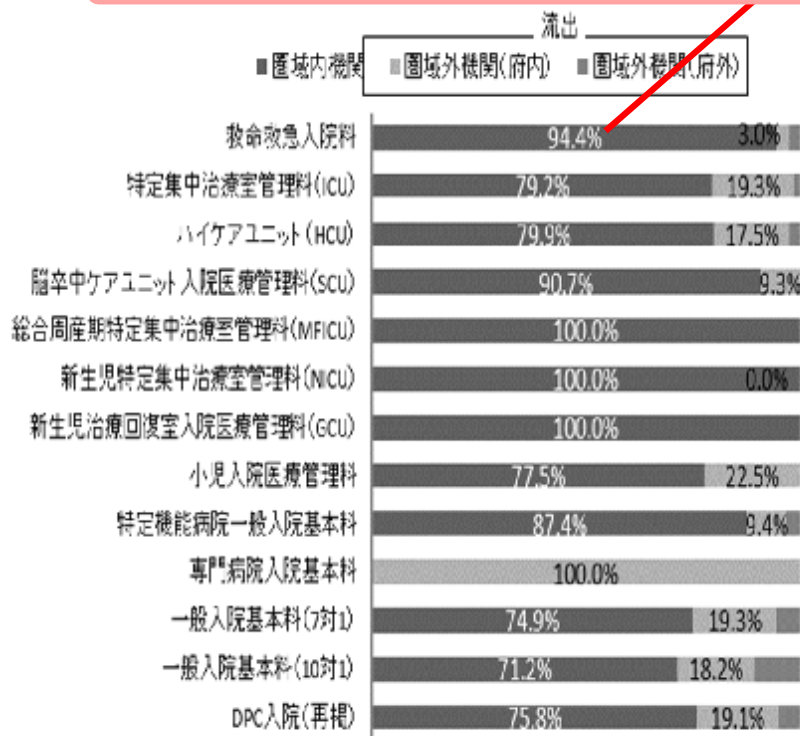
入院基本料別の状況

(1) 患者受療状況(2016年度NDBデータ【国保・後期高齢者レセプト】)

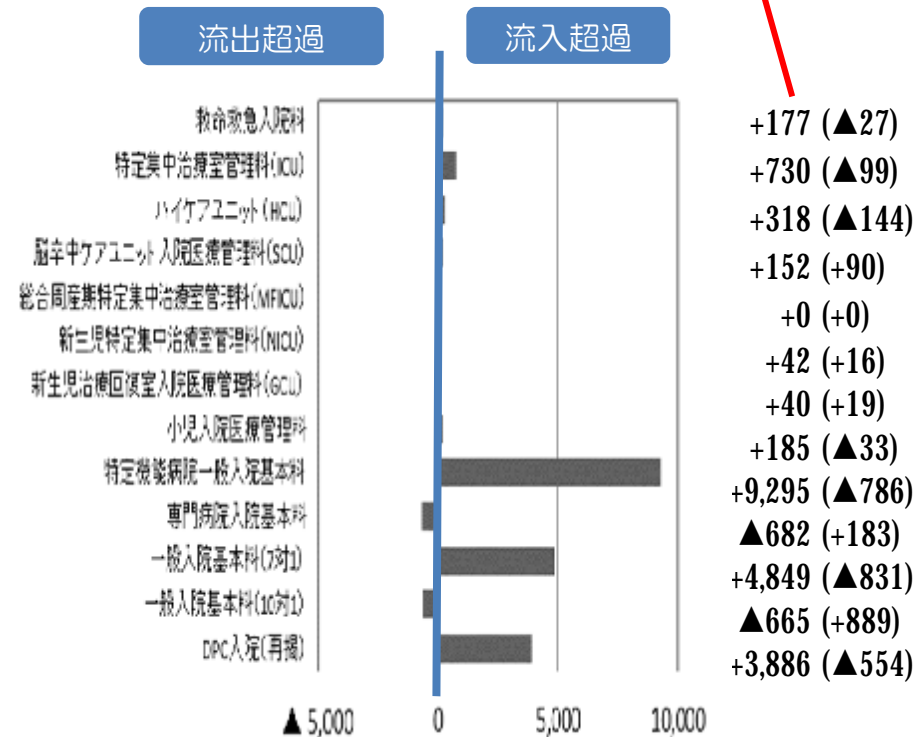
● 住民の入院先医療機関の所在地別割合

● 流入患者と流出患者の差(レセプト件数)

救命救急入院料にかかる自己完結率は「94.4%」



【数値標記凡例】
2016年実績 (2015年度実績との差)

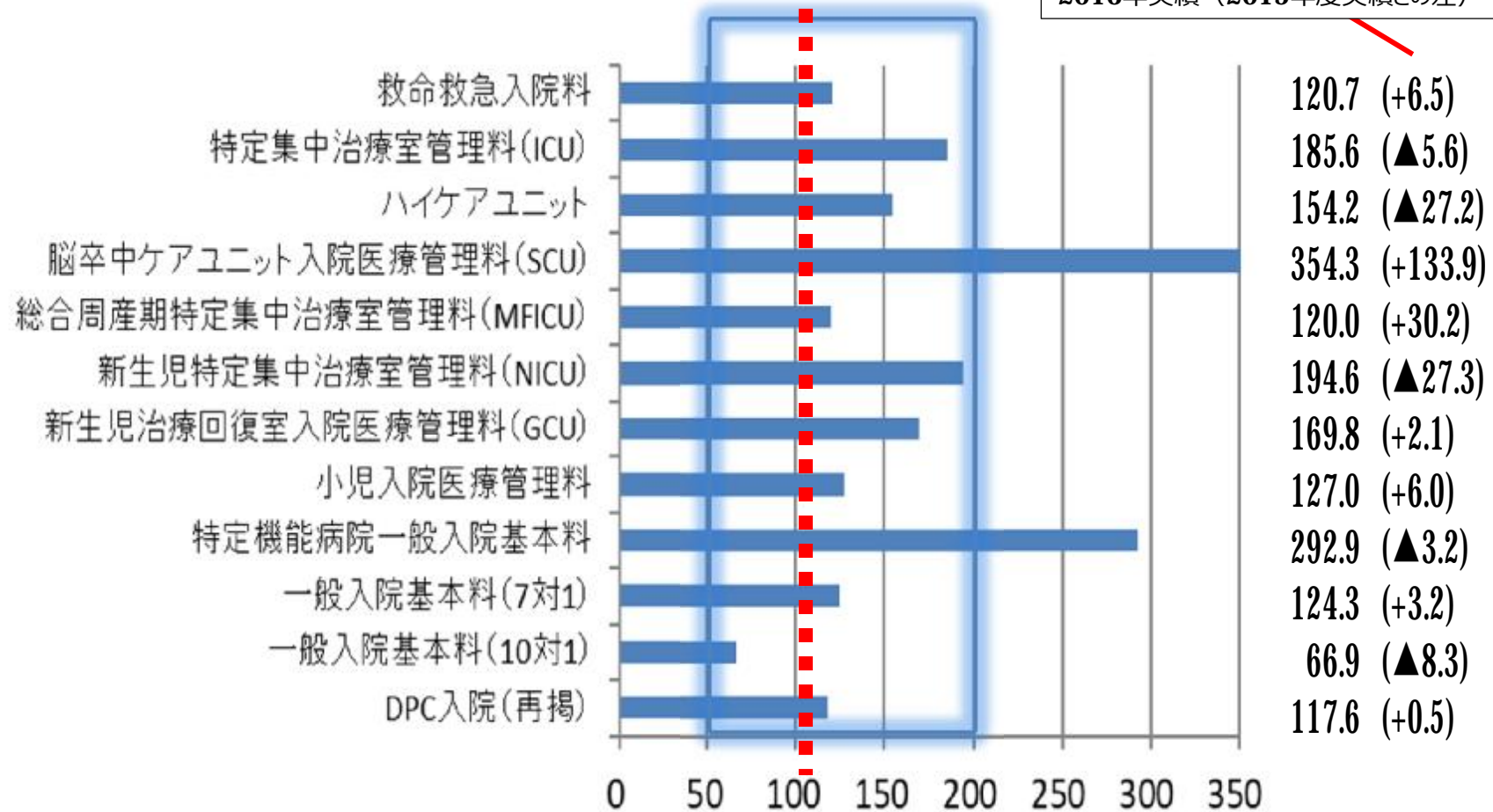


2 高度急性期から急性期(急性期一般)の概要 (2) 患者受療・医療提供状況 (NDB) ②

すべての管理料等のSCRは50以上で、ICU、NICU、GCU、HCUは150を、SCUは350を超えているが、一般入院基本料(10対1)は低い

(2)医療提供状況(SCR) (2016年度NDBデータ)

【数値標記凡例】
2016年実績 (2015年度実績との差)



2 高度急性期から急性期(急性期一般)の概要 (3) 現状と課題のまとめ

○患者の流出は少なく、流入超過の状況にあるので、本圏域では、高度急性期から急性期(急性期一般)にかかる病床機能は、比較的充実していると考えられる。

○そのなかでも、SCUの医療実績は全国と比較して非常に多く、NICU、ICU、GCUも高い。

3 急性期(地域一般)から回復期の概要 (1) 病床の現状

病床数(人口10万対)は、地域包括ケア病棟は府平均の約半分、回復期リハビリ病棟入院料は府平均より高く、一般病棟(13対1)の病床数は約5分の1、平均在棟日数は府平均の約2倍である

●入院基本料・特定入院料別報告

入院料区分	豊能				大阪府			
	病床数	前年比	人口10万当たり病床数	前年比	病床数	前年比	人口10万当たり病床数	前年比
地域一般入院料1、2(一般病棟13対1)	50床	0床	5床	0床	2,158床	▲72床	24床	▲1床
地域一般入院料3(一般病棟15対1・特別)	221床	0床	21床	0床	2,772床	▲566床	31床	▲7床
地域包括ケア病棟入院料・入院医療管理料	217床	40床	21床	4床	3,785床	501床	43床	6床
回復期リハビリテーション病棟入院料	853床	8床	82床	1床	5,993床	141床	68床	2床
緩和ケア病棟入院料	97床	▲3床	9床	▲1床	643床	50床	7床	0床

●病床の利用状況

入院料区分	豊能				大阪府			
	病床稼働率	前年比	平均在棟日数	前年比	病床稼働率	前年比	平均在棟日数	前年比
地域一般入院料1、2(一般病棟13対1)	90.3%	5.3%	41.3	10.6	63.5%	▲5.6%	21.6	0.1
地域一般入院料3(一般病棟15対1・特別)	71.8%	0.2%	39.7	▲0.4	72.5%	2.0%	38.8	4.0
地域包括ケア病棟入院料・入院医療管理料	76.2%	▲3.8%	19.9	▲0.8	83.5%	5.8%	25.2	1.2
回復期リハビリテーション病棟入院料	88.5%	1.8%	67.0	▲0.2	87.3%	▲2.3%	59.1	▲2.3
緩和ケア病棟入院料	78.9%	0.2%	27.2	▲4.8	68.3%	▲2.4%	22.9	▲2.3

出典 病床機能報告(結果は暫定集計)

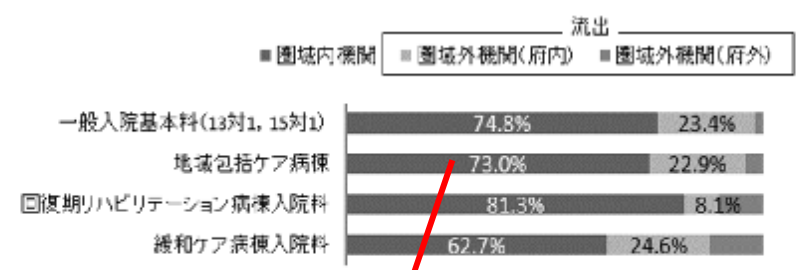
3 急性期(地域一般)から回復期の概要 (2) 患者受療・医療提供状況(NDB)①

地域包括ケア病棟は流出超過であり、SCRも50を下回っているが、回復期リハビリテーション病棟は流入超過となっている

○入院基本料別の状況

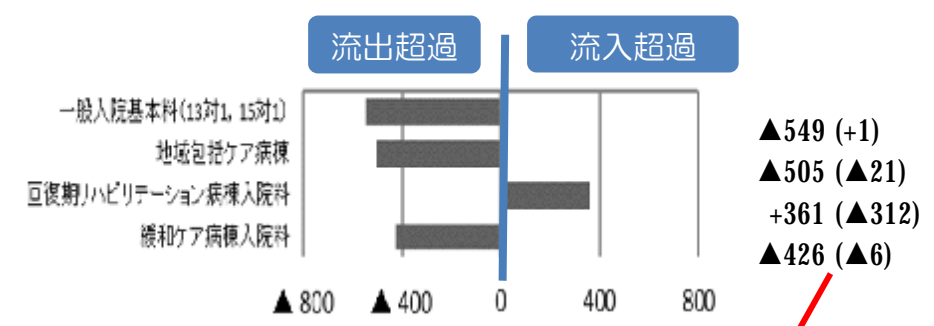
(1) 患者受療状況(2016年度NDBデータ【国保・後期高齢者レセプト】)

● 住民の入院先医療機関の所在地別割合



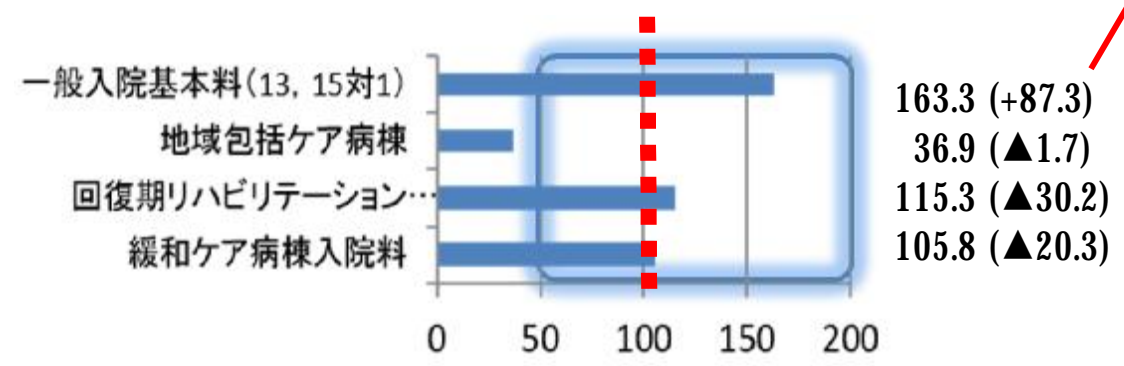
地域包括ケア病棟の自己完結率は「73.0%」

● 流入患者と流出患者の差(レセプト件数)



【数値標記凡例】
2016年実績 (2015年度実績との差)

(2) 医療提供状況(SCR) (2016年度NDBデータ)



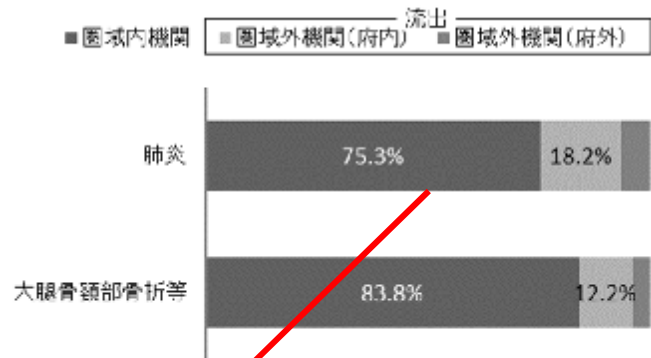
3 急性期(地域一般)から回復期の概要 (2) 患者受療・医療提供状況(NDB)②

大腿骨頸部骨折等は自己完結率が高い値でかつ流出超過であるが、肺炎は流入超過となっている

○肺炎・大腿骨頸部骨折

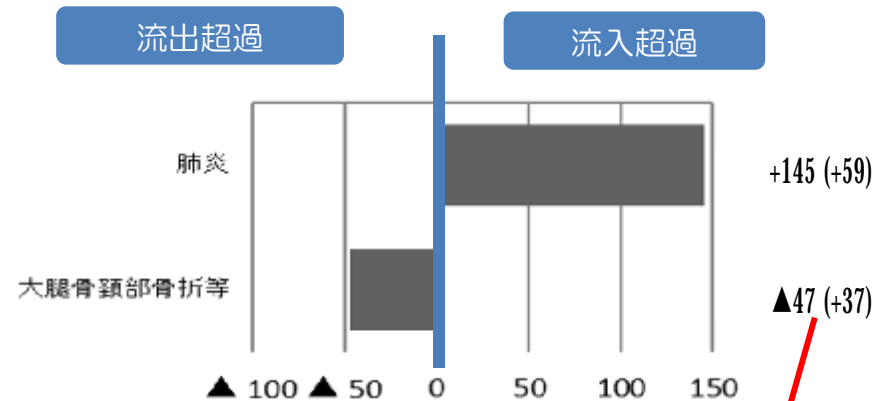
(1) 患者受療状況(2016年度NDBデータ【国保・後期高齢者レセプト】)

●住民の入院先医療機関の所在地別割合



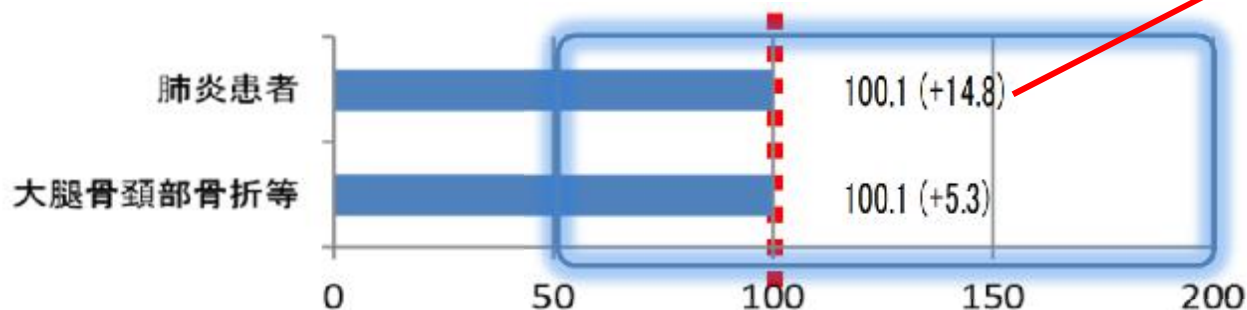
肺炎の自己完結率は「75.3%」

●流入患者と流出患者の差(レセプト件数)



【数値標記凡例】
2016年実績 (2015年度実績との差)

(2) 医療提供状況 (SCR) (2016年度NDBデータ)



3 急性期(地域一般)から回復期の概要 (3) 現状と課題のまとめ

○回復期リハビリテーション病棟入院料は流入超過であること、また人口10万
当たり病床数も多いことから充足していると考えられる。

○それ以外の入院料は流出超過であり、特に、地域包括ケア病棟については、
流出超過であり、SCRについては50を下回っていることから、今後必要とされ
ていく見込みである。

4 長期療養(慢性期)の概要 (1) 病床の現状

療養病棟入院基本料は、昨年度と比較して人口10万当たりの病床数、病床稼働率、平均在棟日数が減少している

●入院基本料・特定入院料別報告

入院料区分	豊能				大阪府			
	病床数	前年比	人口10万当たり病床数	前年比	病床数	前年比	人口10万当たり病床数	前年比
療養病棟入院基本料	1,211床	▲ 30床	116床	▲ 3床	17,007床	210床	193床	3床
介護療養病床	0床	0床	0床	0床	1,483床	▲ 305床	17床	▲ 3床
障害者施設等・特殊疾患病棟入院料	913床	4床	87床	0床	6,295床	406床	71床	4床

●病床の利用状況

入院料区分	豊能				大阪府			
	病床稼働率	前年比	平均在棟日数	前年比	病床稼働率	前年比	平均在棟日数	前年比
療養病棟入院基本料	83.8%	▲11.0%	256.9	▲ 32.7	88.6%	0.2%	209.9	▲ 7.2
介護療養病床	0.0%	0.0%	0.0	0.0	83.0%	▲10.0%	322.6	▲ 16.4
障害者施設等・特殊疾患病棟入院料	84.5%	▲3.0%	82.5	▲ 6.6	89.2%	2.5%	85.0	▲ 10.4

出典 病床機能報告 (結果は暫定集計)

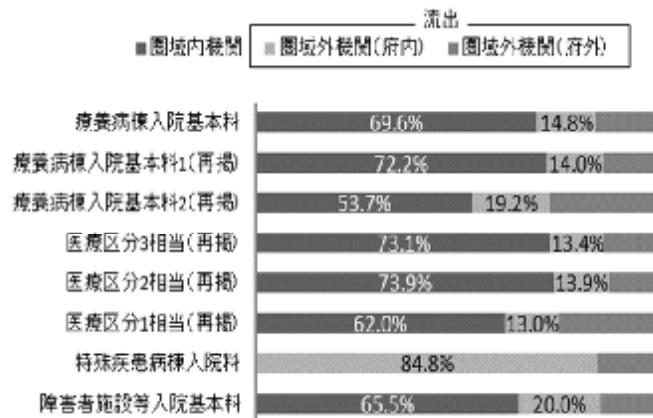
4 長期療養(慢性期)の概要 (2) 患者受療・医療提供状況(NDB)

療養病棟入院基本料2は流出超過でありSCRも50以下であるが、療養病棟入院基本料1は流入超過でSCRは全国平均となっている

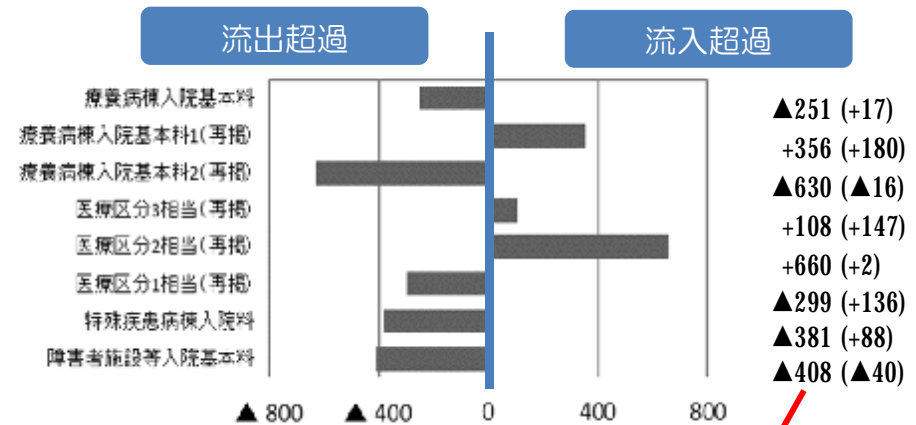
○入院基本料別の状況

(1) 患者受療状況(2016年度NDBデータ【国保・後期高齢者レセプト】)

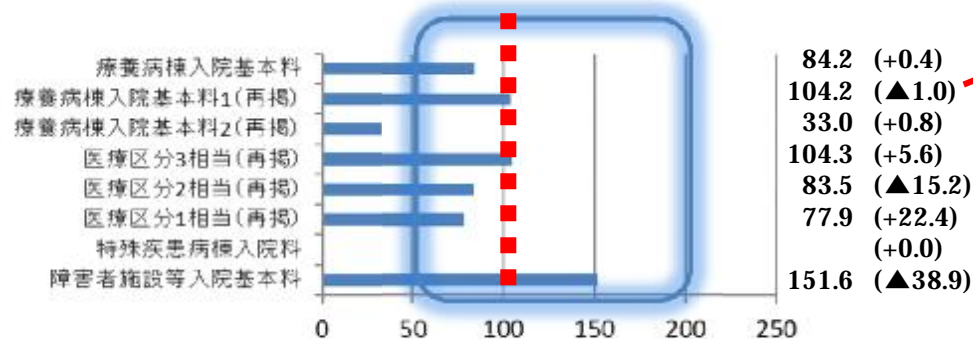
● 住民の入院先医療機関の所在地別割合



● 流入患者と流出患者の差(レセプト件数)



(2) 医療提供状況(SCR) (2016年度NDBデータ)



【数値標記凡例】
2016年実績 (2015年度実績との差)

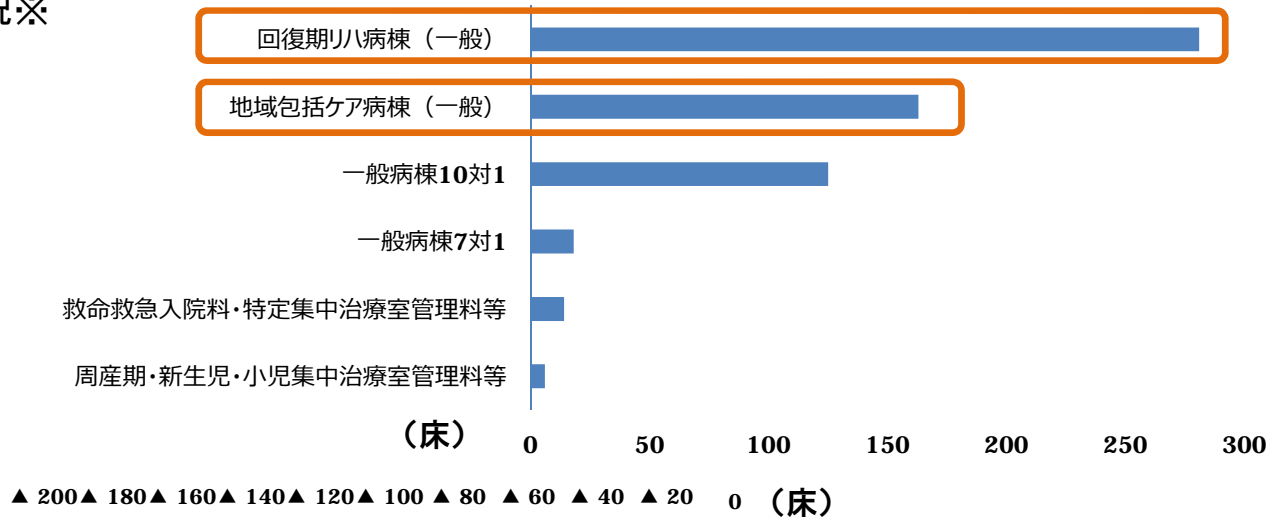
4 長期療養(慢性期)の概要(3) 現状と課題のまとめ

○療養病棟入院基本料1は流入超過で、医療区分2相当患者が流入超過となっていることから、医学的管理が必要な患者に対応している医療機関が多いと考えられる。

5 将来のあるべき医療体制に向けて (1) 2025年に向け各病院が検討している病床機能

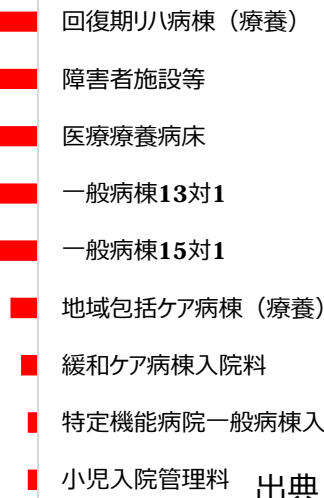
圏域全体としては医療療養病床等を減らし、回復期リハ病棟(一般)や地域包括ケア病棟(一般)等を増やす方向となっている

●入院料別の検討状況※



●公立・公的・民間別の検討状況※

	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	全体
公立	20	▲ 25	5	0	0
公的	7	18	0	0	25
民間等	0	▲ 103	205	▲ 69	33
合計	27	▲ 110	210	▲ 69	58



※2025年に向けた検討状況

各病院の2025年に検討している入院料別(病床機能別)病床数総計から各病院の現在の入院料別(病床機能別)病床数の総計を差し引いて算出

5 将来のあるべき医療体制に向けて (2) 2025年に向け各病院が検討している病床機能のまとめ

○将来に向けて地域包括ケア病棟への転換数は増加する見込みであるが、救命救急入院料・特定集中治療室管理料等の高度急性期機能への転換を検討している医療機関が公立・公的病院に存在する。